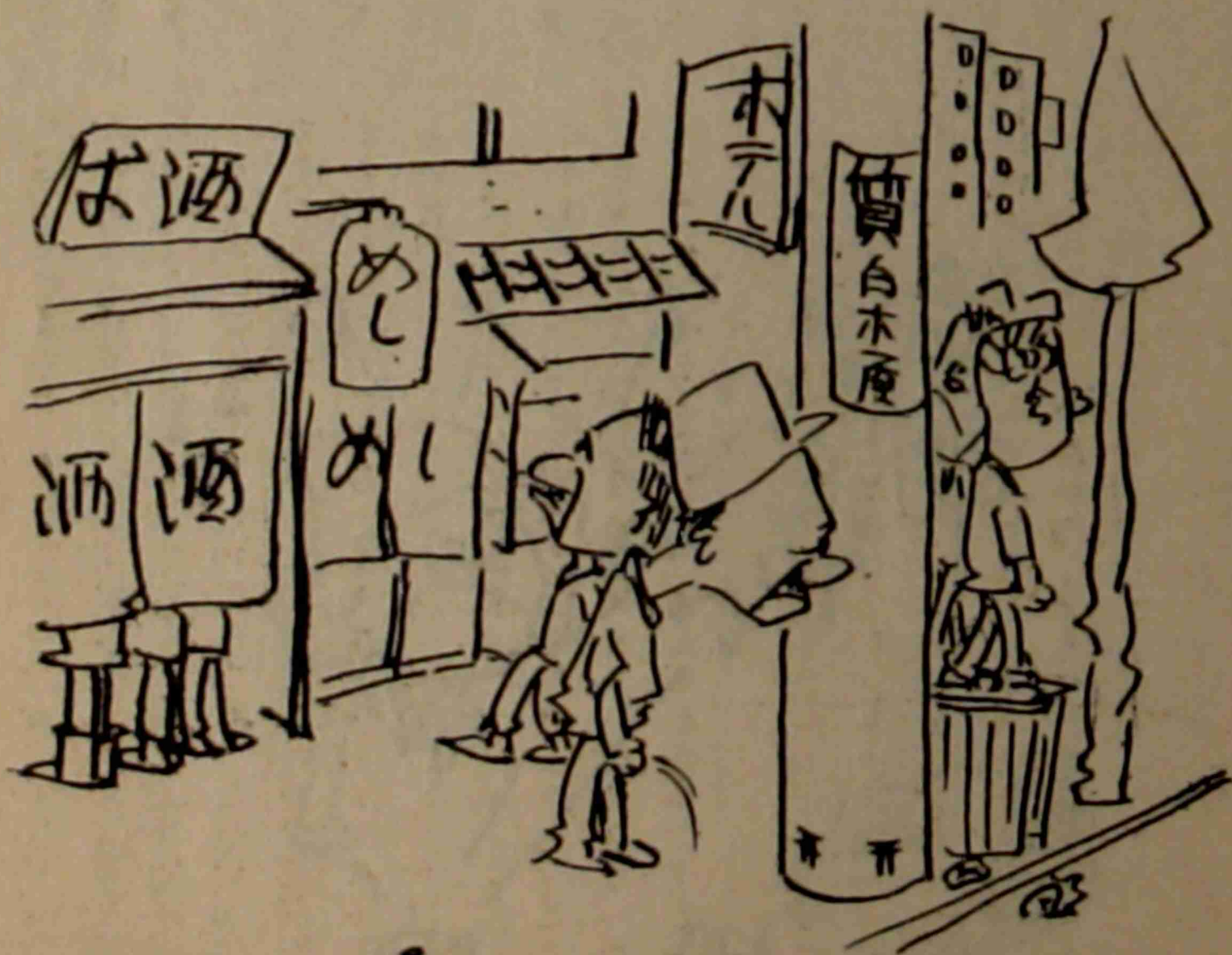




おっりん失業センター 52.6.21

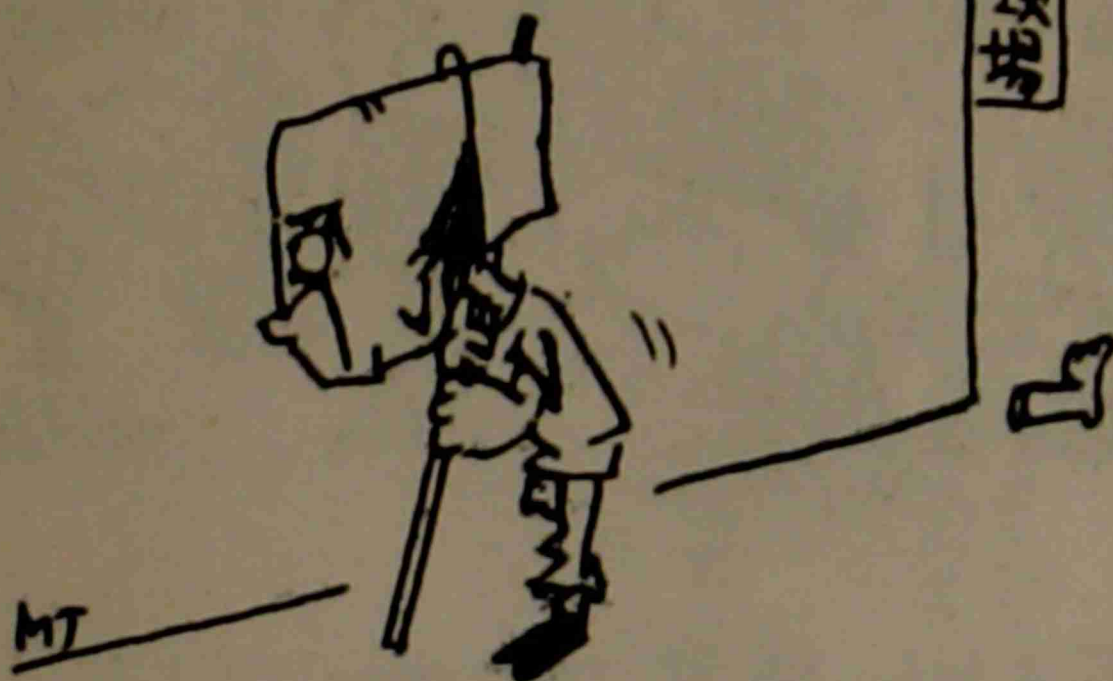


MT

釜ヶ崎銀座

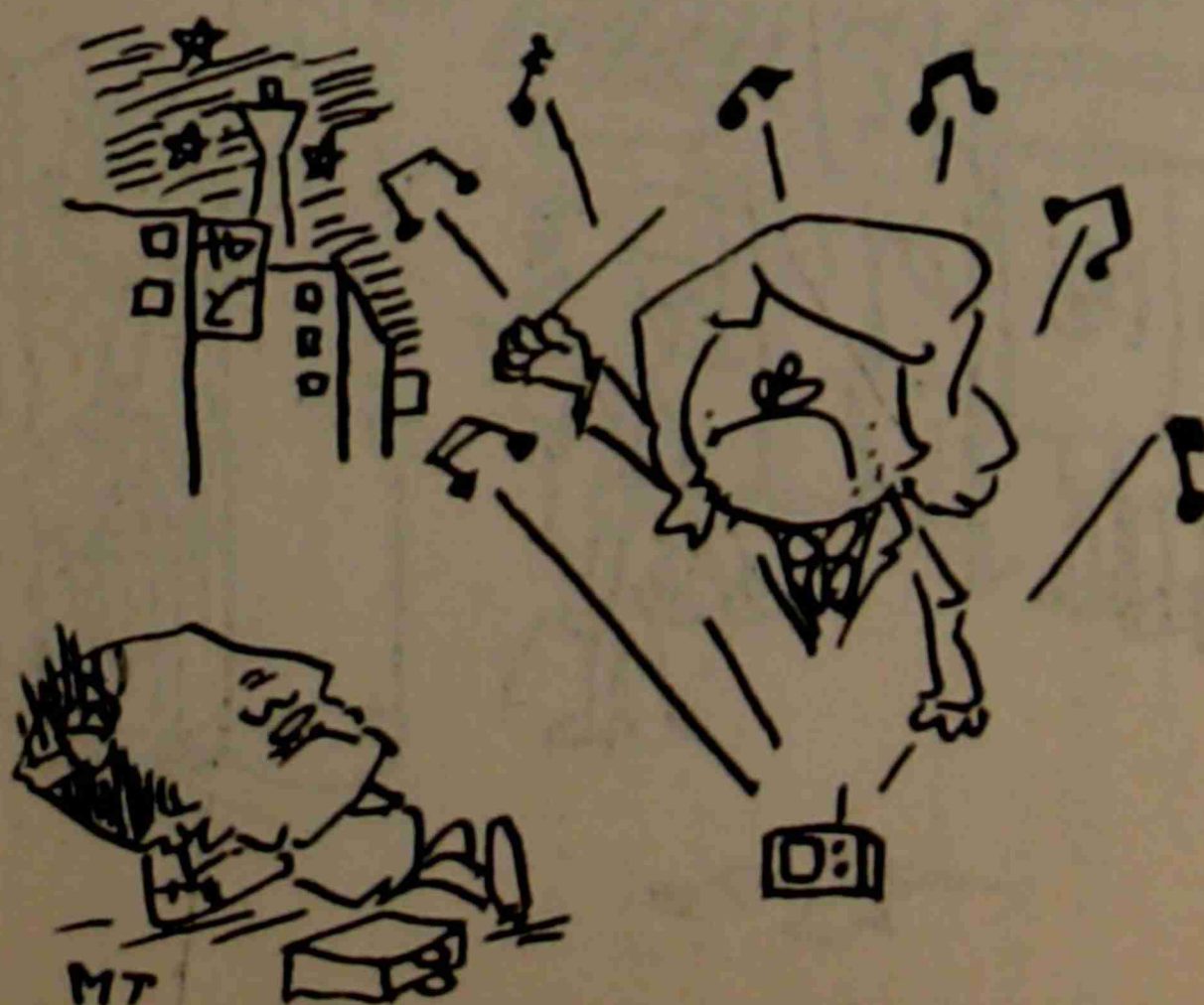
安全第一

建設現場



MT

使い捨ての下請労働者



MT

パートマンと私

読者から

労働者渡世読んでいます・利気特集はぜひ益の全員が一読し、知る価値があります。

ところで、今まで何故益の人間の行きつくところ、本質である問題、本当の病氣―ギャンブル(競艇・競馬・競輪・パチンコ・麻雀等)と酒について、とりあげないのか、不可解に思います。

編集者がきらいなのか、知らないのかわかりませんが、ギャンブルと酒をかたらずして、労働者渡世が益人の出版とは申せますまい。この問題をあらゆる面から、とことん話す場でない限り、この労働者渡世は、一部の文学的気どり屋のもので益の

人間にとけこまないし、又一定部数以上出ないのもうなづけます。益の人間に本質的にせまるギャンブル・酒、その問題点―いきつくところ―結果として、笹川良一の罪惡等について募集し、特集して下さい。益のベストセラー間違いないし。

景久 (三七才)

(係) けっして読んでも、知らないのでもないのです。すでに16号で「酒」特集をやり、17号で「あそび」(ギャンブルが主)特集をやりました。編集委員も全体にアル中気味です。しかし、ギャンブルも結構やっています。しかし、討論の場を、といわれると、あまり論じられていないようです。一度や二度の特集で酒やギャンブルが語れるとは思っていません。仲間たちの投稿を元に特集を組む予定です。どうぞ、えんりよせずに投稿下さい。

× ×

「労働者渡世」二月号拝読しました。私のところには毎日たくさん人の出版物がおくられてきますが、最近は大雑誌、大新聞のたぐいは、ほとんど見出しぐらいしかよみません。

もっぱら、すみからすみまでよむのは、ガリ刷りや小部数のミニコミです。中でも「労働者渡世」は、差別を一生のテーマとして追及してきたいと思っている小生にとっては最重要の愛読書です。多忙な中でシコシコと時間をさいて制作している人の姿が目につかびます。

「仲仕あれこれ話」「ミナトの詩」「アンコのストライキ」「炊事婦」よかったですね。「中央公論」や「文芸春秋」もこういう作品もとりあげなければイミがないと思います。

よみやすい文章、わかりやすい内容、語り口そのままの再現。これはルポの原則として、私には教えられる

るところが多いのです。

みなさん夏バテせず、へこたれずにがんばって下さい。

猪野健治 (四三才)

初めて投稿します。私は清川町に住む住人。「労働者渡世」を買ったのは、台東区清川町(旧山谷)長瀬書店です。

三、四年前に大阪西成(旧釜ヶ崎)にいった時もありました。ある程度は知っておりますが、西成も大分変わったと思う。

私は日OMなる故、「おかま」特集は興味があつて読んでおりましたよ。

伊沢健次 (四六才)

(係) 本号の「無縁仏が何故悪」にも出ています。しかし、この場合10さんの例は、どう思われますか。ご意見をお聞かせ下さい。

人間にとけこまないし、又一定部数以上出ないのもうなづけます。

益の人間に本質的にせまるギャンブル・酒、その問題点―いきつくところ―結果として、笹川良一の罪惡等について募集し、特集して下さい。益のベストセラー間違いないし。

景久 (三七才)

(係) けっして読んでも、知らないのでもないのです。すでに16号で「酒」特集をやり、17号で「あそび」(ギャンブルが主)特集をやりました。編集委員も全体にアル中気味です。しかし、ギャンブルも結構やっています。しかし、討論の場を、といわれると、あまり論じられていないようです。一度や二度の特集で酒やギャンブルが語れるとは思っていません。仲間たちの投稿を元に特集を組む予定です。どうぞ、えんりよせずに投稿下さい。

× ×

「労働者渡世編集委員会」のみなさん、毎号興味深く読んでいます。今は学生ですが、以前大阪駅のク

ツミガキを一年ほどしていました。そこでは益々から二人ほど通いをされていた方がいました。日払いで三千二百円だったと思います。

「労働者渡世」は緊張感があるの私は好きです。

御健斗を祈っています。

森川栄三 (十九才)

(係) クツミガキにも日雇いがあるのですか。人夫出しのオヤジみたいなものがあるのでしょうか。詳しく聞きたいですね。

その時の体験を書いてもらいたいです。 「労働者渡世賞」にでもいいですから応募して下さい。

× ×

× ×

「労働者渡世」二月号拝読しました。私のところには毎日たくさん人の出版物がおくられてきますが、最近は大雑誌、大新聞のたぐいは、ほとんど見出しぐらいしかよみません。

もっぱら、すみからすみまでよむのは、ガリ刷りや小部数のミニコミです。中でも「労働者渡世」は、差別を一生のテーマとして追及してきたいと思っている小生にとっては最重要の愛読書です。多忙な中でシコシコと時間をさいて制作している人の姿が目につかびます。

「仲仕あれこれ話」「ミナトの詩」「アンコのストライキ」「炊事婦」よかったですね。「中央公論」や「文芸春秋」もこういう作品もとりあげなければイミがないと思います。

よみやすい文章、わかりやすい内容、語り口そのままの再現。これはルポの原則として、私には教えられる

(1) 私は「渡世」の内容のことはとも角として、よくぞ今日まで(21号現在)続けたものだ、そのことがエライと思います。

昔の人は、三日坊主とはよく言ったもので、私も仲間同志のパンフレット等をこしらえた経験をもっていますが、いつも3号位までで、それ以上続いたためしなしです。

(2) 渡世の読者も増えたし(この頃)、協力者も増えたように思います。これから一ついいたい。政府攻撃の、本誌をもって爆弾としたい。

黄田健一 (三七才)

(係より)

この欄への便りをまっています。いろんな意見を出して下さい。

「読者文壇」「渡世賞」にも応募作品をどんどん出してね。